

2006年度 ゆきとどいた教育をすすめる

全国3000万署名・推進ニュース NO.25

発行日:2006年12月5日 発行:全教・日高教・教組共闘

- 兵庫 - 昨年度の署名数を達成!

兵庫教組の3000万署名集約数は58,628筆に達し、昨年度の最終到達署名数57,295筆を上回りました。集約日の兵庫教組からの報告には、「教育基本法のとりくみ等で、教職員の行動はすすみにかつたが、父母・PTAとの共同がつくれている地域では、例年以上の成果を出している」とありました。そこで、具体的なとりくみと教訓をお聞きしました。

伊丹市では、連合PTAと教育懇談会を開催して来た、また市とへの要求項目について検討しあって毎年ひとつの要求を設定し、対市要求署名に掲げて取り組んでいる。議会では否決されるものの、予算編成で実現するなど成果が上がっている。そのPTAとの日常的な共同のとりくみが、父母の信頼を得、署名数の増加につながっているのではないかと。そして、この伊丹市での教訓が県内各地に広がっている。

神戸では、執行部が各PTAに手紙を書いて訴えたところ、応えてくれるPTAが幾つか出てきた。

との、お話でした。素晴らしい教訓を来年、いや今年の各地のとりくみに生かしましょう。

- 埼玉 - 埼玉県に35万筆を提出

埼玉の「ゆきとどいた教育をすすめる埼玉100万署名実行委員会」は、11月29日に、県議会の委員会室で「提出集会」を開催し、35万3091筆を積み上げ、県に対して要請を行いました。「提出集会」は、県議会への提出前に、県で公立を担当している教育局の教育委員会と、私学を担当している知事部局の総務部を招いて、署名を積み上げて、30人学級の実現、私学助成の増額、教育予算の増額、障害児教育の充実等を求める要請行動です。

この日も、父母と教職員、そして高校生など130名が参加し、県側からは県立学校部長、総務部副部長らが出席しました。また、日本共産党の県議会議員2名が同席しました。

積み上げた35万筆の署名を前に、小学校の教職員は「厳しい財政のもとでも、独自の教員加配を行う市町村もあります。県は教育条件整備に責任をもつべきです」と訴えました。また、養護学校の教職員は、障害児学校に入学希望者が増え続けて学校がパンク状態にあると述べ、「地域ごとに養護学校を新設しなければ解決しない。養護学校を新設してほしい」と、訴えました。また、私学の生徒は、「学費が払えずやめる生徒がいます。学校を選択する自由を保障するために、私学助成を増額してください」と、訴えました。

県側は、教職員の増員や私学助成など教育予算の増額について、「財政が非常に厳しい」と、消極的な回答に終始しました。

実行委員会では、国への提出までに昨年以上の署名を集約することを目指し、引き続き奮闘しています。

<お願い> 集約集会に、父母とともに、ご参加を!

12月11日に社会文化会館で、今年度の「3000万署名集約集会」が開催されます。その集会にむけて、幾つかお願いがあります。

何よりも、たくさんの父母とともにご参加ください。参加者名簿を全教に送付していない組織は、すぐ送付してください。各県のとりくみを20秒で報告するコーナーがありますので、各県で私教連や父母懇等と連絡をとりあい、報告内容や報告者を相談してください。

午前中の紹介議員とりつけ行動について

午前中の紹介議員とりつけ行動のために、各県選出国会議員の人数分の署名(200筆の署名の束)をお持ちください。すでに地元で要請が終っている県は、参加の無い県から選出された文部科学委員等に要請していただく予定です。そして、最大のお願い!!一筆でも署名を多く集めてください。